

他インフラ干渉を考慮した3次元街路樹リスク予測システムの開発

― 街路樹管理のDXソリューション

― 河内 大輝、鈴木 大樹、望月 陽介

倒木事故が増える一方、自治体では人手・予算不足から十分な点検が難しくなっています。私たちは、スマホで道路を撮影するだけで、樹木の位置や太さ、異常箇所をデータ化し、台帳作成から点検・報告・情報共有までを一つのアプリで行える仕組みを開発しました。従来は高額で時間のかかった台帳作成を低コスト・短期間に変え、書類業務を約8割削減。限られた予算と人手でも、街の緑を安全に守れる管理へ変えていきます。

Before これまでのアナログ業務

- 手書きメモと転記の手間
手書きメモを後から転記。多くの時間と工数が発生。
- 電話と紙ベースの連絡
苦情対応や業者間の連絡・報告がアナログ。
- 優先順位の不明確さ
どの樹木から対処すべきか網羅的に把握できない。

After 本サービス導入によるDX

- 現場入力だけで報告書が完成
点検結果をアプリに入力するだけで自動作成。
- アプリ上で連絡・報告を完結
業者間の情報共有や報告がリアルタイムかつデジタルに。
- データに基づく計画的維持管理
地域全体でメリハリのある予算配分と管理が可能に。

撮影

スマホ等で動画を撮影



解析

管理に必要な樹木位置・直径（樹齢）等を解析



業務DX

一元管理アプリにより
管理業務のDXを実現

